

2024年1月19日市内RC新春合同例会 ゲスト卓話

鹿児島市長 下鶴 隆央



皆さま、こんにちは。鹿児島市長の下鶴でございます。

鹿児島市内ロータリークラブの皆さまにおかれましては、市政の各方面にわたり、ご理解とご協力を賜っておりますことに、心から感謝申し上げます。

そして、この度は、お話しをさせていただく機会を設けていただき、厚くお礼申し上げます。本日は、『彩りあふれる 躍動都市・かごしまの実現に向けて』と題して、人口減少の急速な進行や物価高騰など、直面するさまざまな課題を乗り越え、将来にわたり、持続可能なまちを築き上げていくための取り組みについて、ご説明いたします。

どうぞよろしく願いいたします。

それでは、はじめに、2023年の市政の主な出来事について、振り返ってみたいと思います。昨年は、急激な物価高騰が進み、市民生活に大きな影響があった一方で、5月には新型コロナが5類感染症に移行し、全国規模の大会を相次いで迎えるとともに、各種イベントを観覧制限なしで開催することができるなど、まちがにぎわいと活気を取り戻しつつあることを実感した1年でした。

3月には、鹿児島マラソンを4年ぶりに開催しました。た、マイアミ市の高校生の受け入れや、1月21日からは、長沙市へ友好代表団を派遣するなど、コロナ禍以降中断を余儀なくされていた、姉妹友好都市をはじめとする海外都市との多彩な交流を再開しました。

8月には、世界マスターズ水泳選手権 2023九州大会のアーティスティックスイミングが開催され、国内外からの参加者などで、まちは大いに賑わい、私達に大きな感動を与えてくれました。鹿児島の風物詩である「かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会」も休止や時期をずらして開催するなどの対応を行ってきましたが、4年度から、皆さまの協力をいただく中で、再開しております。

10月には、コロナの影響により3年間延期となっていた（51年ぶりの）国体と鹿児島では初めての全国障害者スポーツ大会が開催されました。各会場で練り広げられた、全国から集結したトップアスリートたちによる熱戦と交流は、私たちに夢や希望、そして熱い感動を与えてくれました。

また、全国各地から本市を訪れた皆さんに、鹿児島ならではの温かいおもてなしに触れていただくことで、本市の多彩な魅力を存分に堪能いただくとともに、本市の魅力を発信することができたと思います。両大会の成功を契機として、さらに鹿児島ファンの拡大に努めてまいります。

4年ぶりに、観覧制限のない「おはら祭」を開催し、万人を超える踊り手の皆さんが、まちを華やかに彩りました。特別企画として、東京ディズニーリゾート・40周年スペシャルパレードを実施したほか、「焼酎ストリート」などの民間イベントとも連携することで、天文館一帯を大いに盛り上げることができました。

今後も各種イベントの開催などにより、多くの市民や観光客の皆さまに、お楽しみいただくとともに、本市のにぎわいと“稼ぐ力”向上につなげていきます。

また、12月初めには、鹿児島ユナイテッドFCが、5年振りのJ2昇格を決めるという大変嬉しい出来事もございました。

また、物価高騰の影響が市民生活にも及んでいる中、給食費の保護者負担の軽減や福祉施設等に対する支援のほか、肥料・飼料の価格高騰や中小企業者の事業継続に対する支援など市民・事業者の皆さまが安心して日常生活を送ることができるよう、引き続き切れ目のない支援を行ってまいります。

次に、防災関連についてですが、元日に、能登半島地震が発生しました亡くなられた方々に対しまして、深く哀悼の意を表すとともに、全ての被災者の方々に心からお見舞いを申し上げます。一日も早い被災地の復興と住民生活の安定を願っております。

本市では、昨年、8・6豪雨災害から30年を迎えました。多くの尊い人命が失われ、1万棟を超える家屋の浸水、道路

の寸断、断水など市民生活に大打撃を与えた災害の記憶は、自然の猛威と防災の備えの重要性を、大切な教訓として、私たちに伝え続けています。

11月には、桜島地域の住民の皆さんや防災関係機関の方とともに、桜島火山爆発総合防災訓練（住民避難訓練）を実施しました。今回は、来年1月に大正噴火から110年を迎えるにあたり、過去の教訓を次世代に継承するため、島内の全小・中学生が参加する避難訓練や火山防災教育を行いました。大規模噴火に対する実践的な訓練を通じて、「犠牲者ゼロ」を目指し、さらなる防災体制の強化に取り組んでまいります

ここからは、第六次総合計画について、説明させていただきます。

まず、総合計画策定の前提となった本市の将来人口の展望についてお話しします。

本市の人口は、2020年に行われた国勢調査では、約59.3万人でした。

国立社会保障・人口問題研究所の2013年に公表した推計値によると、2060年の人口は約41万7千人まで減少すると推計されています。そのため、本市においては、若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、本市の魅力を生かした交流人口の拡大など、人口流出を抑制する取組を進めることにより、2060年の将来人口として約51万5千人を目指すこととしております。なお、2023年12月22日に公表された最新の推計値によると、2013年の予測よりも減少スピードが緩やかになっております。

こうした時代の変化に的確に対応するとともに、本市のポテンシャルを生かし、将来にわたり持続可能なまちをつくり上げていくために、市民一人ひとりが互いに尊重しあい、個性と能力を発揮しつつ、人やまちの多様なつながりを深めていくことにより、新たな価値が生まれ、多彩な人材やまちの魅力が豊かな彩りとなる、人もまちも躍動する鹿児島市の創造を目指し、「つながる人・まち 彩りあふれる 躍動都市・かごしま」を都市像として掲げております。

それでは、この「都市像」を実現するために、先導的かつ重点的に取り組む3つの「プロジェクト」について、説明します。

一つ目が、「地域の稼ぐ力向上プロジェクト」です。

人口が減少していく中であって、地域経済の活力を高めていくためには、地域の稼ぐ力の向上が重要です。観光面では、インバウンドへの対応強化や多様なツーリズムの展開、産業面では、6次産業化の推進や地域産業の生産性向上など、地域の稼ぐ力の向上を目指します。

まず、観光需要が本格的な回復へ向かう中、この好機を逃さぬよう、インバウンドのV字回復に向けたプロジェクトを積極的に展開していきます。インバウンド誘客に向けた魅力づくりとして、高付加価値観光商品の造成や、ナイトタイムエコノミーの実証実験などを実施します。また、幅広い視点による誘客として、香港・台湾・韓国市場における個人旅行者向けのプロモーションなどを行います。さらに、安心して観光できる受入環境の整備として、食の多様性に対応する新メニューの開発支援や、多言語ガイド向けの実践的な研修を実施します。

その主な取り組みとし、9月には、甲突川沿いのにぎわい創出と、回遊性向上を図るため、年間を通じて楽しめるイベントを、民間事業者の運営によりスタートしました。維新ふるさと館の周辺で、キッチンカーやマルシェによる飲食や、貨の販売に加え、SUP(さっぽ)やカヤックなどの甲突川を生かした体験コンテンツも実施しています。

11月には、天文館と本港区を最短距離でつなぐマイアミ通りにおいて、歩道空間を活用した社会実験を行いました。マイアミ通りだけではなく、照国表参道(国道225号)でも歩行者天国を実施しました。また、北ふ頭においては、観光客の滞在時間延長や消費額拡大に向けた実証実験として、潮風を感じながら、地元出身のアーティストによる音楽とお酒・食事を楽しめるナイトマーケットなど、夜間における観光コンテンツ創出につながるイベントを開催しました。

このような取り組みを進めていき、中心市街地のにぎわい創出及び回遊性向上を図り、市民や観光客の皆さんが「歩いて楽しめるまちづくり」を推進していきます。

本市と鹿児島ユナイテッドFCとの連携による取り組みとし、センテラススクウェアなどにおいて、天文館商店街振興組合連合会や天文館連絡協議会の協力のもと、大型ビジョンで試合を放映するパブリックビューイングを開

催しました。

私自身もスポーツ観戦が趣味の一つですが、スポーツは市民に夢や感動を与え、地域の連帯感を高めるとともに、交流人口の増加や、まちのにぎわい・地域経済の活性化につながることから、スポーツを生かしたまちづくりも重要と考えております。

また、若い世代から選ばれるまちとなるためには、わくわくするエンターテインメントの存在が必要であると考えております。日常的に多くの人を訪れ、まちに新たな活力を生み出す、多機能複合型スタジアムの整備に向けて検討を進めております。サッカーなどのスポーツ以外にも多目的に利用するため多機能化や、スタジアムと親和性があり、誰でも気軽に利用できる施設との複合化が図られた、稼働率が高い、「稼げる」スタジアムを目指しております。

産業面での取組としまして農林水産業では、都市農業センターに「6次産業商品開発施設」が完成し、レトルト製品を製造する機器や真空包装をすることができる機器を整備するなど、新商品開発を推進するための取組を進めているほか、ICT等の先端技術を活用したスマート農業技術の導入に向けた取組に対して支援等を行っております。

また、中小企業者の経営基盤強化や製品等の販路拡大に対する取組を支援するため、生産性向上や人材育成、新製品の開発や越境ECサイトの導入、SNSを活用した広告宣伝等に対し助成するほか、新型コロナウイルスによる社会変容に対応した事業展開の支援のため、中小企業者等の商品販売やサービス、店舗のPRを図るEC（電子商取引）サイトの立ち上げ等に対し助成しております。

このように、観光面、産業面における取組を進め、地域の稼ぐ力の向上につなげたいと考えております。

二つ目が、「ICTで住みよいまち推進プロジェクト」です。

デジタル化は新たな局面を拓く大きな力になると確信しており、市民サービスへICTを活用することによって、皆さんの利便性の向上を図り、もっと便利で住みよいまちになることを目指すものです。「DX推進サポーター」として、デジタル戦略推進課に配置しました。新たな技術を積極的に施策に取り入れ、市民サービスの向上と行政運営の効率化に取り組んでいただくこととしています。

“ICTで住みよいまち”の一環として、私は、行政手続きのDX推進を通じて、「行かなくてもいい市役所」の実現を目指しており、4月から新たな公共施設予約システムの運用を開始し、西原商会アリーナや地域福祉館、サンエールかごしまなどの予約から使用料の支払いまでをオンラインで可能にしたほか、マイナンバーカードなどを活用した、証明書の発行や各種請求・届け出などのオンライン手続きを順次拡大しております。また、市役所窓口や観光施設にキャッシュレス決済を導入したほか、住民異動手続きにおいてICTを活用し、「書かない窓口」を実現することで、市民の待ち時間の短縮を図ることとしております。

今後とも、新たな技術を、積極的に施策に取り入れ、10月からは、迅速・的確な災害対応や応急手当につなげるため、119番通報をした方の協力のもと、スマートフォンで撮影した災害現場の状況を通信指令員と共有できる119番映像通報システムの運用を開始しました。（もしも、災害現場に遭遇した際にはご協力をお願いいたします。）

ICTの活用におけるその他の取組としては、スマートフォンでウェブサイトやLINE上から、病児・病後児保育の空き状況の確認やいつでも予約を行うことができる「あずかるこちゃん」のサービスを導入しております。（R4.10月）これまでの電話による照会や予約申し込みは、保護者の方にも施設の職員にも負担が大きく、このサービスによりより利用しやすい病児保育の提供が可能になったと考えております。

市民の皆さまの利便性の向上を図ってまいりたいと考えております

また、公共交通が不便な地域での新たな交通手段の検討の一環として、AI（人工知能）を用いた予約型の乗合送迎サービスの実証実験を行いました。

このように、ICTの活用により、もっと便利で住みよいまちとなるよう、デジタル化の推進に積極的に取り組んでまいります。

また、公共交通が不便な地域で新たな交通手段の検討の一環としてAI（人工知能）を用いた予約型の乗合送迎サービスの実証実験を行いました。

三つ目の重点プロジェクトが、「“子どもの未来輝き”推進プロジェクト」で、子育て環境の充実や、新しい時代に対

応した教育を進め、子どもが夢や希望を持ち、輝ける地域社会を 目指すものです。特に、待機児童の解消に向けては、私自身も対策の検討に積極的に関わり、「保育士確保」、「利用定員増」及び「利用調整」の3つの柱に沿って、重点的に取り組みを推進しているところです。

保育士の安定的な確保に向けて、潜在保育士が復職した際の就職奨励金の給付や処遇改善、することで、保育士の確保と職場定着を図っております。また、保育の利用定員増に向けて、賃貸物件を活用した保育所の設置や利用定員拡大を促進するための 改修経費に助成しております。また、子育て支援の取組としましては、すべての妊婦・子育て世帯が安心して出産・子育てができるよう妊娠期から出産・子育て期まで一貫して身近で相談に応じ、様々なニーズに即して、必要な支援につなぐ伴走型支援の充実と出産・子育て応援金の給付による経済的支援を一体的に実施しております。

また、育児の不安などを抱える家庭を訪問し、家事援助を行うことにより、保護者の負担を軽減しております。利用調整の面では、ショートメッセージサービスを活用し、施設の空き情報をタイムリーに提供しております。人口減少時代において若い世代に選ばれる街になるため、令和6年4月1日時点での待機児童ゼロを目指します。

児童生徒一人ひとりに応じた学びを提供するため、小・中学校において ICT を活用した学習ドリルを導入しました。また、市立3高校において、スタンフォード大学の専任講師による英語のオンライン講座を通じて、グローバルに活躍できる人材を育成します。

このような取組を一層進めることで、子どもたちが健やかに成長し、将来にわたって夢や希望を持てるまちを目指します。

重点プロジェクトの説明は、以上となります。

「彩りあふれる 躍動都市・鹿児島市」の実現に向けて 物価高騰や人口減少の急速な進行など、先行きに対する不安感を払拭できない状況が続いています。

こうした中、私は、「市民のための市政」を基本に、ポストコロナを見据えた稼ぐ力の向上やデジタルの積極的な活用など攻めの取組を展開し、コロナ前の日常にただ戻るのではなく、人口減少時代に生き残る、さらに成長した鹿児島市を築き上げ、次の世代へ引き継いでいかなければならないと考えております。

そのために、前例や慣習にとらわれず、新たな発想や民間の知見などを積極的に活用しながら、力強く“前に進む力”と、時代の潮流などの変化を的確に捉え、直面する課題に迅速かつ柔軟に“対応する力”を持って市政に臨み、「第六次総合計画」に掲げた都市像「つながる人・まち 彩りあふれる 躍動都市・かごしま」の実現に向け、さらに彩り豊かなまちを創造すべく、積極果敢に挑戦してまいります。

【まとめ】

昨年2023年を振り返りつつ、本市で重点的に取り組む3つのプロジェクトを中心に、最新の市政の動きや新たな取組をお伝えしてきました。

今年は、私の市長任期の締めくくりの年となります。

引き続き、長引く物価高騰への支援などにしっかりと取り組みながら、諸施策の総仕上げに全力を尽くし、市勢の発展に邁進してまいります。

皆様方には、引き続き応援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。